

建設マスターに中村 公二氏(株)第一テクノ

国土交通省が主催して、国土交通相による顕彰制度である「優秀施工者国土交通大臣顕彰」の式典が10月18日午後、東京都港区のメルパルクホールで開催された。平成24年度は、建設業界団体等から推薦を受けた全国各地の施工技術者のうち、国土交通省内の顕彰審査委員会による選考を通過した合計362人が栄えある「優秀施工者（建設マスター）」の称号を授与され、受賞者には顕彰状と記念のバッジが贈呈された。

式典では、羽田雄一郎・国土交通相、マリ・クリスティーン・優秀施工者国土交通大臣顕彰審査委員がそれぞれの立場から祝辞を述べた。続いて、受賞者の居住する都道府県ごとに、南の沖縄県から北の北海道へと順に、受賞者全員の氏名が紹介され、受賞者と同伴者が起立して会釈で応えた。また、受賞者のお子さん等からの「作文」が披露された。

自家発業界関係では、発電設備（ガスタービン、ソーラー等）や上下水道施設等の開発、設計、施工、保守を手がける東京都品川区の株式会社第一テクノに所属する「中村公二（なかむら・こうじ）」氏が、優秀な機械器具設置工として「建設マスター」の称号を授与された。さらに、式典の会場では、中村氏のお子様による「私の父の仕事」と題する作文を含む合計6編の作文が紹介された。

今回受賞した中村氏は、機械器具設置工として、入社以来33年以上にわたり現在も常に施工現場の第一線に立ち、豊富な施工実績を持つ。また、施工方法に関する技術面での創意工夫や後進への指導育成にも積極的に努める等の功績が認められ、顕彰に結



建設マスターを授与された中村 公二氏と令夫人

びついた。

建設マスターの顕彰制度は、「機械器具設置工」「電気工」「建設機械運転工」「電気通信工」「配管工」「溶接工」等の建設業28業種の工事に携わる技術者を対象としている。顕彰時点でも常に施工現場の第一線に立ち続けている事、20年以上の優れた工事実績を備えている事、後進にとって模範となる人物である事といった選考基準を満たした上で、顕彰審査委員会の判定に合格する事が求められている。

なお、同日の会場では、顕彰式典の後、同省及び建設産業人材確保・育成推進協議会が共同主催して、「平成24年度私たちの主張、未来を創造する建設業」の入賞作品及び受賞者の紹介も行われた。

その他にも立体交差点に設置されるポンプ設備には、発電機がついていて台風などの大雨時に停電になったとしてもポンプは排水できるとのことでした。その話を聞くまで立体交差点のことなど気にもしていませんでしたが、父の仕事は、私たちが生活している中で目立ちはないけど必要不可欠なものだと思いました。

見えないところで人々の生活を支える仕事をしている父は、私にとって世界で一番誇れる父です。父は、私たち家族のために毎日、朝は私が起きるより早く仕事に行き、夜は遅くまで仕事をし帰ってきます。そんな父には、感謝の気持ちでいっぱいです。体には気を付けて健康第一でこれからもがんばって下さい。『毎日、ありがとう。お父さん』

◆題 名：私の父の仕事

◆氏 名：中村 優

◆推薦団体：(一社) 日本内燃力発電設備協会

私の父は、工事現場で働いています。仕事内容は、ポンプ関係の設備工事をしています。以前、父と車で出かけたときに『線路をくぐる道路の立体交差は、なんで雨が降っても水が溜まらないと思う？』と聞かれたことがありました。私は、なんで？と思いました。結局なぜだかはわかりませんでした。

父に聞くと、『立体交差点にはポンプが設置してあり、水が溜まる前に排水しているので水が溜まらないんだよ。』と教えてくれ、そのようなポンプ設備をつくる現場が父の仕事だと初めて知りました。